杉 浦 三千雄 次

当役が居てその年の神社の祭典や神社の仕事を神官の指示に従って手伝いすることになっ その他の山田、乾谷の氏子である。ただし、それは昔からこの地に住んでいる家である。 人衆は神社の座の祭事並びに管理を神官の指示によって行う。なお、その各座から一名の 神社には十人衆が居る。それは各座から選出され、南座三名、北座七名で構成する。十 氏子の大きな行事は一月八日の「二の会」の行事と十月十七日の「松の戸」の行事である。 北座は前座と後座に別れている。その座の別れの説明は別の機会に譲る。 新殿神社は南座、北座に別れ南座は山田の樋ノ口、辻村、上中、相和の氏子で、北座は 神社の行事は時代によってしばしば変わりはあるが昔から大体同じである。



祓いの詞奏上



作業前の御神酒

ている。

石」という。今は川上に行かないで神社の下にある井尸で水浴びを行い井戸の近くの石を 御供餅つきの日に風呂に石を藁につつんで入れ、湯をわかすのである。この石を「清めの 家は当役と共に奈良の川上の川で水浴びをして身を清める。なお、その川の石を持ち帰り 持ち帰るようになっている。 「二の会」の行事は一月八日に行う行事で、その準備として一月五日に御供餅をあげる当

当家の御供餅つき御幣きりは各家とも同じように準備し同じ方法でつくることになって

いて、その指導は神官がすることになってい

る。

き行事に入る。この肴は三種と焼魚である。祓を行う。修祓の後、作業前の御神酒をいただき風呂に入り祓いの詞を奏上し、各作業場の修き風呂に入り祓いの詞を奏上し、各作業場の修

今もその作業中は女は家に入らないようにし幣きり、注連縄作り、御供餅つきである。仕事は、床の間、門口の二ヵ所に神祭りと御



注連縄作り



御供餅つき

詰所で寝起きすることになっている。 身を清めた後、霜消しの御酒をいただき当役、 神社では神官、当役、十人衆、当家の順に風呂に入り身を清める。 当家は午前二時に六日につくった御幣、御供餅、

御供餅あげの行事は五時で、御供餅は五カ所にあげる。全部御供餅があがると神官の詞

当家の記帳を行う。

奏上がある。

昼食はかしわのすき焼、つくり、酢物、茶椀 仕事が終わり昼食前にあづき餅をいただき、

蒸、吸物、三種の六点である。

いた神官、十人衆に御礼の挨拶をする。 全部の行事が終わると当家は作業していただ

間に集まり各当家とも無事に行事の終わったこ 十人衆は全部の行事が終わると神社の八畳の

とを当役に報告する。当役は御礼を申し八日の

予定その他の打ち合わせを行い皆予定を確認し

て帰宅する。

八日の御供餅あげの日は当役は前日より座の

その他食事の品を持って座にあがる。

85



幣 舞

舞も五カ所で行う。それがすむと御神楽をあげられ撤饌になる。 後座といったように年々変わる。当役十人衆のあと当家が各社の前で御幣舞を行う。 この行事が終わると御幣舞がある。この順番は申し合わせで定められてあり南座、前座、 御幣

上の座に神官、当役、そのいち。下の座に南座、北座、各座の十人衆が着座する。

次に御神酒の儀が行われる。

御幣舞の儀が終わると南座、北座で小豆お粥に餅を入れた食事をいただく。



御 神 楽



下座儀式かますこんぶ

御神酒の儀は、神前に神酒をあげられ、御神酒神楽が上げられる。



下座儀式三種豆腐汁



下座儀式ちょうず

この間、神殿の前の木に上げる大注連縄作りを当家の手伝いの方で行う。大注連縄は直径

3・ちょうず

2・三種 豆腐汁

上 座 座

上座

下座

1・かます こんぶ

下 下座 座



大注連縄作り

一十センチメートル、長さ十メートルの大きさのものである。

御神酒の儀が終わるといよいよ大注連縄があがる。この大注連縄の上がった時当役は祝

くるのである。

おまいりした子供達はお菓子をもらって帰宅する。その時早十一時を過ぎんとしている。

その祝詞が終わると子供達は舞台にそなえてある「こうるい」をもらいにとび上がって

詞をあげる。





はり終わった大注縄と中央に刺された御幣





〈備考〉

大注連縄上げの当役の祝詞とは普通神事

当家のあいさつ

大注連縄上げの祝詞は次のような意味のた で、祝詞は神官が奏上するものであるが、

めの祝詞である。

内安全子孫繁栄、住民が手に手をとり互いに助けあい楽しい平和な村で在ることを祈誓す るため氏子崇敬者を代表した誓文である。 五穀豊壌であることを願うと共に国家の安泰と悪しき風、悪しき水にあうことなく、家

「二の会の買い物」

三十枚

御幣紙

からの「二の会」の行事が終わる。 挨拶を当家から神官十人衆に申し上げ五日 いて無事御供餅上げの儀が終わった御礼の 以上の行事が無事終了した時、 上座にお 

 上半紙
 一帖

 真綿
 少々

 金引芋
 少々

 八寸ペギ
 大二 小六

 八寸板オシキ
 二枚

 四寸ペギ
 二枚

 二寸五分カワラケ
 二枚

 本材子
 二枚

 老あみ
 一本

 会あみ
 だいだい

 ところ(ひげさん) かや かちぐり

各十五個

 豆腐
 三種

 三豆腐
 「一月六日の準備品」

 「一月六日の準備品」
 1

 カマス
 2

 神酒
 1

 さる米
 2

 こも
 2

 はんの本(オーコ用)
 4

 三種
 3

 三の腐
 3

カマボコ

91

小豆

昼食時の肴

くし柿 こんぶ 白門広 各二ところ(ひげさん)かや かちぐり 格 橘 みかん だいだい 各三個

各十五個

豆腐 三種 玄米

杓子ボコ

金あみ

包丁

フキン 吸物わん

小餅

醤油 塩 漬物 洗物上かご

小皿

小豆の煮た物

カマス

結びこんぶ

御幣に使用した残米

十 約二 十二個

二 一足 枚

四 本

ぞうり

小かんじょう

こも

また、次年度の当家になる方は、見習いとして行事の始めから終わりまで参加して「二

の会」の行事の心がまえと準備をすることになっている。

93